



京都市文化観光資源保護財団

会報

No. 40



もくじ

京の社寺と名花・名木	伊佐義朗	P 4
京のよさをまもって(3)「嵐山の美」嵐山保勝会会長	古川英一	P 7
目で見える京の文化財 No.10「明治」文化財」		P 8
わたしと京の文化財(9)「鞍馬と火祭」由岐神社宮司	林 武雄	P 10
京の伝統行事芸能 ③「西ノ京ずいき祭」		P 12
古い寺に住んで(17)	勸修寺住職 筑波常遍	P 14
保護財団の活動		P 15

会報題字 理事長 佐伯 勇
表 紙 無鄰庵庭園 (名勝)

会 報	
No. 40	59. 10. 1
編集・発行 財団 京都市文化観光資源保護財団 法人 京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内 〒606 電話 075-752-0235 (代)	

募金にご協力いただき ありがとうございました

寄付者芳名録（敬称略）59.2.2～59.6.12

—法人及び団体の部— 〔特別会員〕

※株式会社 三和銀行	< 7,000万円>
※関西電力株式会社	< 6,300万円>
※株式会社 京都銀行	< 4,000万円>
※大阪ガス株式会社	< 1,500万円>
※京都信用金庫	< 1,500万円>
※三井信託銀行株式会社	< 1,200万円>
※三菱信託銀行株式会社	< 1,150万円>
※住友信託銀行株式会社	< 1,100万円>
※京セラ株式会社	< 800万円>
※東洋信託銀行株式会社	< 800万円>
※安田信託銀行株式会社	< 800万円>
※南海電気鉄道株式会社	< 650万円>
※阪神電気鉄道株式会社	< 650万円>
※株式会社 京都新聞社	< 620万円>
※財団法人 今日庵	< 450万円>
※中央信託銀行株式会社	< 400万円>
※佐川急便株式会社	< 355万円>
※日本信託銀行株式会社	< 325万円>
※株式会社村田製作所	< 228万円>
※株式会社 都ホテル	< 130万円>
※京都旅館不動産株式会社	< 100万円>
任天堂株式会社	< 50万円>

〔普通会員〕

※厚木市立睦合中学校生徒会	<36万9千3百6拾2円>
※株式会社 灰孝本店	<26万円>
※株式会社 八千代	<26万円>
※京阪コンクリート工業株式会社	<20万円>
※丸三株式会社	<17万円>
※株式会社 山田商店	<16万円>
※泰生織物株式会社	<12万円>
※株式会社 曾根商店	<11万5千円>
※旅館 松葉亭	<11万円>

〔賛助員〕

※厚木市立林中中学校生徒会	<9万6千3百4拾8円>
※ヤマカワ株式会社	<6万2千円>
※京都生花株式会社	<6万円>
※株式会社京都相互銀行秘書課	<6万円>
※株式会社あめりか屋	<3万5千円>
※ふじや	<3万5千円>
※厚木市立玉川中学校	<2万7千8百8拾1円>
※アオイ自動車従業員一同	<2万5千3百3拾4円>
厚木市立小鮎中学校生徒会	<2万4千円>
株式会社トウヨーコウゲイ	<1万円>
※トクデン株式会社	<1万円>
※京紅商店	<9千円>

—社寺の部— 〔特別会員〕

※大 仙 院	<120万円>
--------	---------

—個人の部— 〔特別会員〕

※親 谷 貞 己	<30万円>
※高 橋 政 幸	<30万円>
※梅 岡 大 祐	<26万8千円>
※竹 村 実 實	<18万5千円>
※丸 山 未 棹	<15万円>
※並 河 康 夫	<14万円>
※田 中 正 男	<13万1千5百円>
※天 野 和 夫	<12万円>
※平 沢 興 治	<12万円>
※今 井 雅 章	<11万円>
※山 崎 き ぬ	<11万円>
※竹 内 キミ子	<10万5千円>
佐 川 正 明	<10万円>

〔普通会員〕

※高 橋 一 男	<9万3千円>
※水 野 弘 三	<9万円>
※岡 本 保 止	<7万9千9百9拾9円>
※原 山 喜 代	<7万5千円>
※澤 田 多喜子	<7万円>
※松 野 里 香	<7万円>
※村 田 陶 苑	<7万円>
※奥 崎 一 郎	<6万3千円>
※加 藤 雅 一	<6万1千円>
※内 田 福太郎	<6万円>
※柴 田 二 郎	<6万円>
※都 築 久美子	<6万円>
※西 脇 弘 長	<6万円>
※神 崎 順 一	<5万7千円>
※上 田 長 雄	<5万5千円>
※友 田 弘 治	<5万1千円>
※上野山 志津子	<5万円>
※弘 津 友三郎	<5万円>
※小 野 初 恵	<4万1千3百円>
※大 嶋 真 治	<3万7千円>
※田 村 芳 子	<3万7千円>
※辨 官 弘 晃	<3万6千円>
※今 井 憲 一	<3万5千円>
※甲 斐 幹 曹	<3万5千円>
※山 田 省 武	<3万円>
岡 部 常 蔵	<3万円>
※寺 島 茂 樹	<3万円>
※野 田 孝 夫	<2万7千円>
※安 田 桂之助	<2万5千円>
※駒 井 みのり	<2万5千円>
※閨 崎 真 一	<2万4千円>
※上 田 健 三	<2万3千円>
※大 野 寿 子	<2万3千円>
※西 原 八重子	<2万3千円>
※舟 木	<2万3千円>

※遠 藤 伊之助	<2万2千円>
※小 林 幸 子	<2万円>
※新 庄 英 雄	<2万円>
矢 田 了 性	<2万円>

〔賛助員〕

※田 井 四 郎	<1万8千円>
※盛 田 准 子	<1万7千円>
※奥 田 芳 男	<1万3千円>
※野 村 幸三郎	<1万2千円>
※岡 本 和 子	<1万円>
※梶 村 ふみ子	<1万円>
※小 松 好 子	<1万円>
※並 河 百合子	<1万円>
安 本 春 江	<1万円>
※金 井 利 夫	<9千円>
※西 田 実 子	<9千円>
※野 村 鉄 治	<9千円>
※東 森 治 世	<9千円>
※手 塚 栄 子	<8千円>
※福 島 善 孝	<8千円>
※森 本 弘 子	<8千円>
※米 谷 昭 子	<8千円>
※竹 内 と よ	<7千2百円>
※奥 野 勝 義	<7千円>
※園 定 寛	<7千円>
※古 川 寛	<7千円>
※戸 田 弘太郎	<6千円>

※松 田 良 雄	<6千円>
※安 田 節 子	<6千円>
※片 山 厳 己	<5千3百円>
浅 田 克 己	<5千円>
※岡 本 直 三	<5千円>
小 林 文 繁	<4千円>
※市 川 延 卿	<4千円>
関 谷 ユ ミ	<4千円>
※德 留 澤 子	<4千円>
※渡 辺 澤 サナエ	<3千円>
※近 藤 サナエ	<3千円>
※環 直 弥 雄	<3千円>
※北 口 貴美実	<3千円>
野 村 一 茂	<3千円>
※山 崎 愛 子	<3千円>
※芳 田 子 子	<2千5百円>
※脇 田 尻 政 雄	<2千円>
高 橋 せ い	<2千円>
長 岡 満 満	<2千円>
細 川 満 楽	<2千円>
渡 辺 典 子	<1千2百円>
※石 見 美奈子	<8百円>
中 安	<8百円>

※印は、追加寄付の篤志者、寄付金額は累計額。なお、昭和59年6月12日以降の寄付者の方につきましては紙面の都合により今後順次紹介させていただきますので御了承下さい。

京都の文化財をまもる

5億円募金にご協力を

—京のよさをまもるこの運動への参加を

あなたのまわりの方々にも呼びかけて下さい—

当財団では、現在5億円募金運動を全国的にすすめています。

京の四行事ははじめとする京都の文化財をまもる5億円募金を達成するために皆様も金額の多少にかかわらずご協力をお願いいたします。

○基金にご協力いただきます場合は、同封させていただきます。納付書によりご送金下さい。

募金その他についてのお問い合わせは、当財団事務局まで

(075)752-0235(代)



京の社寺と 名花・名木

伊 佐 義 朗

社寺の名花・名木というのは、もともとその郷土の自然と風土に根ざして存在するものであることはいうまでもないが、また人間の文化と歴史を忘れて語ることはできない。

ことに古都 京の社寺については、多くの名花名木の中でもその筆頭に位置づけ出来る種類の一つに、常緑樹ツバキをあげることができるが、このことはとりもなおさずツバキを育てる京の自然と、茶の湯を中心とするさまざまな文化がこれをささえたものとして、京にはいまに伝わる名花、銘椿の多いことが広く知られている。

国際ツバキ協会の総会（1983）が京で開かれ、世界各国の会員が京のツバキを賞讃したこともそれを裏づけている。いま限られた紙面で京のツバキを語りつくすことは出来ないが、ここではその数例をとりあげあとは一覧表によって示すことにしたい。

I. 京の銘椿

(1) 総見院のワビスケ

秀吉が信長のおとむらいに植えた記念の木。「豊公遺愛のワビスケ」として双幹の大樹がいまに残る。利休が育てたこのワビスケは、猪口咲小輪で桃色に白ばかしのあるいわゆる胡蝶佗助とよばれる名種で、子房に毛をつけ雄しべ不稔の性質は、起源不明の珍種でもある。別に後水尾上皇ゆかりの大株が鹿苑寺（金閣寺）にも



総見院のワビスケ(左)とコチョウワビスケ(右)



ある。

(2) 月真院のウラクツバキ

円山公園を南へはいった東側に、土堀ごしに栄える桃色小輪のツバキがある。信長の弟、織田有楽斎が宗門に入り茶道に精進するうちに愛好の椿として、香りのある紫桃色小輪の本種が伝わった。おなじウラクツバキは、等持院、東福寺竜眠庵にも大樹が育つ。

(3) 林丘寺のシロワビスケ

修学院離宮の中の御茶屋に接して林丘寺がある。ここには、後水尾天皇（1596～1680）が、内親王のために植えられたと伝えられる銘椿シロワビスケが有名である。これが、世にある白佗助の原木ともいわれ、炉の季節の茶花として欠かせない。初冬から3月にかけて咲きつづけ雄ずいは不稔性。

(4) 宝鏡寺の熊谷・月光

人形寺で知られるここ宝鏡寺には、ヤブツバキ系の品種として熊谷・月光が有名であり、ことに熊谷は肥後系椿の原型となっている。放射状に発達した雄ずいに特徴がある。また別に、光格天皇御遺愛のカキツバタ（鷲の尾）と花卉の長く垂れるイセナデシコもこの寺の名花である。

(5) 霊鑑寺の日光椿

洛東の門跡寺院としてここには多数のツバキの名花がみられるが、中でも後水尾天皇の皇女落飾にまつわる日光、白玉の老大樹が銘椿となっている。

さて、京の社寺の名木を語るもう一つのとらえかたとして、かつて高僧たちが中国から伝来した名木があり、例えばボダイジュ、ビャクシン（イブキ）があげられる。

II. ビャクシンの名木

(1) 大徳寺のビャクシン

仏殿の南庭にあって文明13年（1482）東西に一つい植えられた記録があり、いま東株のみが残る。昭和58年6月、前記総見院の佗助と共に京都市の天然記念物に指定。樹高21メートル、胸高直径1.5メートルの名木。

(2) 東福寺のビャクシン

仏殿の西側にあって開山国師、宋より携え来るの記事が都名所図絵（安永9年・1780）にみえる。高さ15メートル、胸高直径1.1メートルの巨樹で上方で二幹に分かれる。

(3) 南禅寺山門のビャクシン

山門の東方に一对植えられて、都名所図絵の記録が今に生きているが、その生育は良好ではない。

III. ボダイジュ

中国原産の落葉樹で寺院に多く植えられているが、釈迦入寂にまつわる菩提樹は、印度産の常緑樹で上記のものとは別種。

(1) 永観堂のボダイジュ

宗叡僧正が入唐帰朝の際に携えてきた原木が、枯れた根から萌芽して今に伝わる古木として繁茂する。



霊鑑寺 日光椿



大徳寺ビャクシン(イブキ)

(2) 真如堂のボダイジュ

真正極楽寺の本堂前にあって株立状の大樹一对が目をはひく。なお、ここでは立皮桜（エドヒガン）と花の木（カエデ1種）の名木にも注目したい。

(3) 建仁寺のボダイジュ

栄西禅師が宋よりもち帰ったといわれる伝承が、株元から芽生え性の強い樹性によって、いまに継続する名木であろうとみられる。

さらに、京の社寺に伝わる季節の花としてウメとサクラをとりあげねばならない。

IV. ウメとサクラ

この二者は、ともに永年の管理に万全の配慮がないとその伝統を保持することが困難になるが、京では歴史の古い①平野神社境内のサクラは、やや往年の隆盛を欠いているがしかしながら、今も茶店衆のたゆまぬ努力にささえられている ②御室 仁和寺のサトザクラは、おそい花にも伝統を守りついでいる。 ③平安神宮のベニシダレは、いまだ樹勢も盛んで京の春を彩る環境として神苑の背景が大きく味方している。

①北野天満宮は梅花の神さまでもあられるが、境内のウメにも外苑の梅林にも神社独自の多くの品種をとりいれて、春を待つウメの便りへ北

野の杜と市民の心がつながっている。②随心院のウメ 山科に遅咲きの唐棣の梅の梅林が、随心院境内に伝わったが京では数少ないウメの名所であろう。

最後に京の自然に直接かかわりをもつ名花・名木をあげて結びとしたい。

V. 郷土の名花・名木

山城盆地をとりまく自然には、山地にスギ、カゴノキ、シイの巨樹をのこし河岸原野の遺物としてエノキ、ムクノキの老木がとくに社寺の森によく保全されている。さらには氷期の名残りとして、温帯にさかえるカキツバタがあげられよう。

(1) 大田神社のカキツバタ

上賀茂の大田の沢は、平安期の歌にもよまれた湿原。国の天然記念物でもある。なお、カキツバタは洛西 梅宮大社にも古い歴史がある。

(2) スギの大樹は、鞍馬由岐神社、久多の大川

神社、貴船神社奥ノ院、鷹ヶ峰の讃州寺にもあって地域の信仰とも結ばれている。

(3)タカオカエデは、郷土の自然をおりなすメンバーでもあるが、とくに高雄の神護寺、梶尾の高山寺では鎌倉時代から植えられた老樹が名木となって錦繡の秋を彩り、観光の足をひく。大原三千院、古知谷の阿弥陀寺とカエデの名樹に満たされた名刹は多い。

(4)ムクロジは、また絹の文化ともかかわり京都市の天然記念物となった知恩院境内の大徑木をはじめ、今宮神社楼門脇の名木、梅宮大社の老樹があげられよう。

さらに、古い都の古い緑として(5)東山青蓮院の老樟の雄大な景観にもひかれるが、貝原益軒が京城勝覧に記録している。(6)西本願寺の水炊きのイチョウ(幹周 6.5メートル)も寺院にまつわる名木として見すごせない。

(京都市景勝地植樹対策委員会副委員長)

主な京洛の銘椿

(参考)

(未公開地を含む)

所在地	主な銘椿、大樹	所在地	主な銘椿、大樹
・上賀茂神社	社叢のヤブつばき、卯杖(正月初卯一節分、卯日椿杖)	・仙洞御所	大宮御所の佗助など、仙洞御所のヤブつばきの樹林
・栂野奥村英三郎	五色八重散椿(樹高9m、枝の張り9.5m、地上70cm、4分枝)	・西方寺	千利休遺愛五色八重散椿(樹高8m、幹周110cm)
・大徳寺本坊	特別名勝史跡、方丈の庭園(白玉、日光)	・等持院	有楽の大樹
総見院	千利休遺愛の佗助	・華開院	日光の巨樹(伝後水尾天皇御手植え)
聚光院	あけぼの、椿垣など	・妙蓮寺	妙蓮寺椿、もと玉竜院内に在りしも焼失、現在本光院にその取り木のもの存す
真珠庵	月光、佗助、あけぼの、東雲、椿垣など	・宝鏡寺	熊谷、月光、玉兎、村娘、九重、妙蓮寺など
大仙院	日光、月光、椿垣、佗助など	・林丘寺	白佗助(後水尾天皇遺愛)
高桐院	酒中花、いほく、天津乙女、黒椿その他	・月真院	有楽椿
黄梅院	酒中花(大綱和尚)、白菊	・地藏院(洛西)	白佗助、佗助、袖隠
三玄院	日光、荒獅子、佗助、やすらい、赤玉、白玉	・詩仙堂	佗助、さざんか
竜光院	綾大神楽(江月和尚手植え)	・貯金局	後藤邸跡、欺雪(光格天皇勅名)
竜翔院	あけぼの、ト伴、神代、黒椿など	・大聖寺	佗助、からつばき、玉兎、九重など
今宮神社	神代椿、月光、ヤブつばき	・法然院	あて椿、花笠椿
・銀閣寺	椿垣	・霊鑑寺	やっこ、白牡丹、散椿、あけぼの、衣笠、えぞ錦、舞鶴、小桜
・金閣寺	佗助の巨樹(伝御水尾天皇御手植え)	・成就院	音羽、稚児
・平野神社	社叢の椿林	・長福寺	白雲、緋竜、石橋、佗助、小式部、紅筆、加茂本阿弥
		・龍眠庵	有楽、なつ椿

京のよさをまもって(3)

嵐山の美

嵐山保勝会 会長

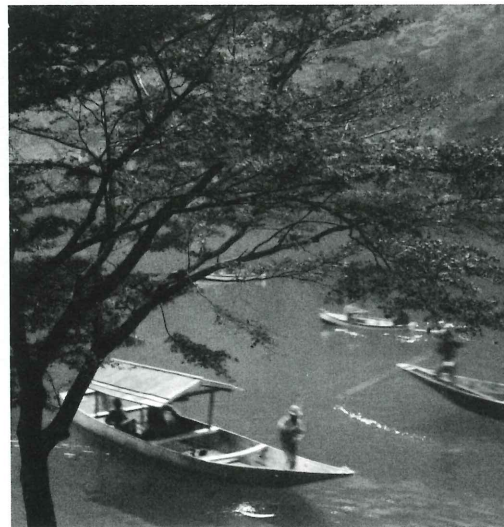
古川 英一



嵐山は、平安の昔より幾多の変遷を経て美しい風情を今に伝えておりますが、山の樹木にも寿命がありまして長い歳月の間には、自然はその景観を変えてまいります。

この土地に住まいするものとして、この自然をさらに次の世代に後世への立派な遺産として残すためには、それだけの努力も必要でございます。

嵐山の山林は、大部分が国有林なので植林をするのにもなかなか難しい面もありましたが、営林署に再三足を運び、折衝をいたしました結果、所轄官庁のご理解とご指導をえまして厳しい条件のなかにも、風光明媚、山紫水明の嵐山を観光地として多くの人々にみていただける自



四季おりおりの美しさをみせる嵐峽



嵐山渡月橋

然の美しい姿に整えるため、桜の植樹の道も開けるようになりました。今では、毎年2月25日を嵐山の植林デーとして営林署をはじめ関係各位とともに嵐山保勝会が山桜の苗木百本を毎年山に植えてきております。これで3年目を迎えることになり、4月の花の頃にはその花が山の緑の間から顔をのぞかせているのを目にしますと、わが子の姿を見るようでございます。嵐山には、四季おりおりの風情がございますが、毎日見馴れている私でさえ、心をひかれる風景があります。

中国の周恩来氏の詩にも詠まれました雨中の嵐山の姿でございます。雨にぬれた山の樹木の深い緑が、川面にたちのぼる霧のようにかすむなかで時折、赤松の長い幹と枝ぶりが浮かびあがる情景は、まさに一幅の水墨画を見るようでございます。

この自然の景観を守るために、これからも皆様方の深いご理解と地元の人たちのたゆまぬ努力によらねばならないことを考えますとその責任の重さに自ずと身のひきしまる思いがいたします。

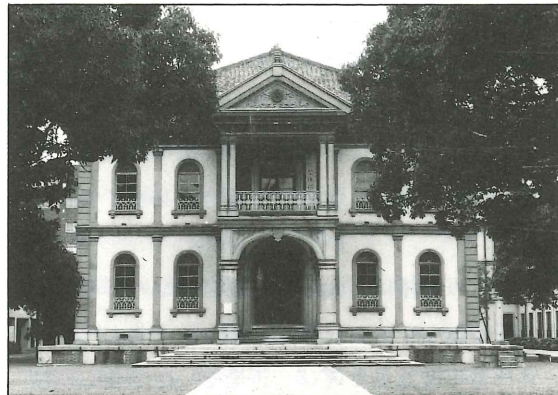
明治の文化財

明治時代の京都は、町づくりとともに産業、文化、教育などを通じて近代化がすすめられ、すぐれた偉業が数多くおこなわれました。今日、京都市内には当時をしのばせる洋風建築や史跡などが保存され、わたしたちの身近な文化財の一つとなっています。

今回は、そのなかから明治の文化財として保存されている建造物、史跡、名勝をとりあげその代表的なものを紹介いたします。



同志社彰栄館（重文・京都市上京区烏丸今出川）
同志社大学構内にある五つの重要文化財の建造物の一つで、明治17年アメリカ人宣教師の設計で建てられたもので、京都に現存するレンガ造りのもっとも古い建物である。



龍谷大学本館（重文・京都市下京区七条通大宮）
もと西本願寺大教校の講堂として、明治12年に建てられたものでその後、龍谷大学本館となった。関西における洋風建築の先駆をなす斬新な建物といわれ、2階建、擬洋風建築で各部には飾り模様の彫刻がほどこされている。

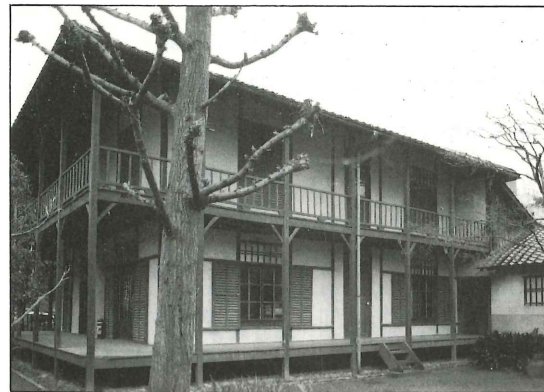


インクラインと水路閣（京都市指定・京都市左京区南禅寺福地町他）
近代京都のまちづくりの基礎となった疏水事業。その一環として施工されたもので、水路閣は、延べ約93メートル、幅 4.5メートルのレンガ造、アーチ構造の特異な景観を呈している。（写真右下）又、インクラインは、蹴上の舟だまりと南禅寺の舟だまりまでの急勾配に軌道を敷き、艇架台により舟を運ぶ施設である。ともに、京都の近代化をみるうえで貴重な明治の史跡である。

旧日本銀行京都支店、平安博物館（重文・京都市中京区三条通高倉）
明治時代のメインストリート三条通に残る代表的な明治建築で、日本銀行京都支店として明治39年に建てられた。赤レンガと白い石からなる外観や造形は、明治建築の代表的なデザインといわれる。



京都国立博物館旧陳列館（重文・京都市東山区東大路通七条）
明治28年、赤坂離宮を初めとする宮廷関係の建築で有名な片山東熊の設計による建物で、当時の最高の材料と技術が用いられている。



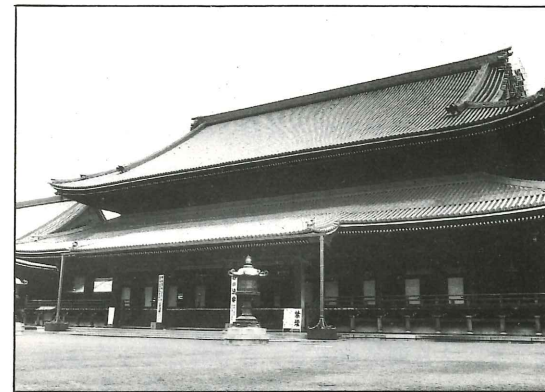
新島襄 旧邸（京都市上京区寺町丸太町上ル）
明治11年に同志社の創設者 新島襄の私邸として建てられた。建物は、和洋折衷の建築様式で洋風の生活様式を取り入れ、近代性を備えた住宅として、明治初期の擬洋風建築の貴重な遺構である。



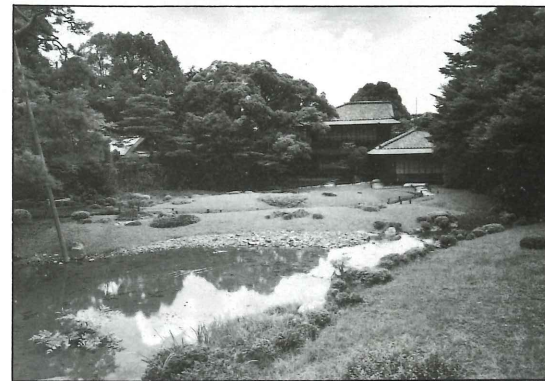
平安神宮神苑（名勝・京都市左京区岡崎西天王町）
神宮本殿を三方で囲む、広さ約3万3千平方メートルにおよぶ神苑で、明治時代の代表的な庭家小川治兵衛による、池泉廻遊式庭園の傑作といわれるものである。



京都府庁旧本館（京都府指定・京都市上京区下立売通新町）
明治37年に建てられ、京都における官庁建築としては現存最古に属する建物である。当時では最高の建築技術が用いられ、ルネッサンス様式を取り入れた建物として明治建築の中でも貴重なものである。



東本願寺大師堂（京都市下京区烏丸通七条上ル）
過去、数度の火災により明治28年に、およそ15年の歳月を要して再建されたもので、南北76メートル、東西58メートル、高さ38メートルの木造建築物でその規模は世界有数のものである。



無鄰庵庭園（名勝・京都市左京区南禅寺福地町）
明治、大正の元老 山県有朋のもと別荘で、昭和16年京都市に寄贈された。庭園は、有朋自らが設計監督したもので、東山を背景に疏水の水をひきいれ、清らかな池泉を中心とした明治時代の代表的庭園である。（表紙写真掲載）



わたしと京の文化財(9)

鞍馬と火祭

由岐神社 宮司

林 武雄

鞍馬と火祭は、不離不即で南北朝以降お互いに組織的になり、七つの仲間ができそれぞれの分担を果たしてきましたが、現在では年中行事にたずさわるだけです。しかし、長い伝統に培われてきました血肉の様は、体内深く染め込み祭当日となりますと、その人となりはがらりと一変する驚きがあります。

火祭の起源は、古く天慶3年(940)にさかのぼりますが、この七つの仲間と鞍馬の住人の根強い信仰心に支えられ、数々の時代の過程を経て今日に至っているのです。宝永4年(1707)以降、昭和37年迄は2日間の祭りであり、今の1日祭りは昭和38年からであります。従って、2日間の行事を1日でおこなうには約



神楽松明と神輿



10月22日由岐神社の祭礼としておこなわれる鞍馬火祭

半分を省略しなければならないのであります。

そこで省略されたおもな部分を紙面の都合で簡単に記し、今の火祭を見るうえで参考にしていただきたいと思います。

天慶年間(938~947)の御遷宮当時の御行列の順序が祭りの中に再現されていましたが、これが省略されています。第2に豪壮にして神秘に富んだ夜の動なる儀式に対して、一転して佳麗にして優雅な「昼の御供」の一大絵巻を再現して、天慶の風俗を知るうえで貴重な静なる儀式の省略であります。これは、御遷宮時それぞれの行在所での最たる祭儀であり重要視されていたものであります。その他「くらがりの諸礼」の由緒、御遷宮時の一大行事の終了を告げる二つの仲間の行事等が省略されています。

私等は、時代と共に生存し人心の遷り変わりと共に考えを新たにすることもまた自然のなりゆきと考察します。しかし、「祭」とは崇敬する氏神に対する感謝の表現であり、豊かな生命の歓びの表現でもあります。私等は、安易な行動や安楽な考えに自己の心を奪われることなく、厳然たる社会に生を得ることを自覚しつつも千有余年の伝統と「鞍馬と火祭」の根元を浮かび上げるため、支えになりたいと思います。

京の主な年中行事 (10月~12月)

10月

- 1~5日 瑞 饋 祭 北野天満宮
- 7日 北白川高盛御供(午前7時30分) 北白川天神宮
- 10日 牛 祭(午後7時~) 広 隆 寺
- 10日 八瀬赦免地踊(午後8時~) 八瀬秋元神社
- 14日 二十五菩薩お練供養法会
(午後1時) 泉涌寺即成院
- 22日 時 代 祭(正午出発)
京都御所~烏丸御池~河原町御池~三条
大橋東詰~三条通神宮道~平安神宮応天
門(午後2時30分頃到着)
- 22日 鞍馬の火祭(午後6時~) 由 岐 神 社
- 23日 岩 倉 火 祭(午前2時~) 石 座 神 社

11月

- 1~30日 七五三詣り 市内各神社
- 3日 曲水の宴(午後2時) 城 南 宮
- 8日 火 焚 祭(午後1時) 伏見稻荷大社
- 11日 嵐山もみじ祭(午前10時30分~)
嵐山渡月橋付近
- 23日 筆 供 養(午後1時) 東福寺正覚庵



牛 祭



岩 倉 火 祭



曲水の宴



針 供 養

12月

- 7・8日 大根だきと成道会法要(午前10時)
千本釈迦堂
- 8日 針 供 養(午後1時) 法 輪 寺
- 9・10日 鳴滝の大根だき(午前9時~) 了 徳 寺
- 14日 義士まつり(午前10時毘沙門堂出発) 山 科
- 21日 終 い 弘 法 東 寺
- 25日 終 い 天 神 北野天満宮
- 31日 除 夜 の 鐘 知 恩 院
- 31日 おけら詣り 八 坂 神 社

※都合により行事・日程が変更される場合がありますのでご了承下さい。



回京都御所秋季一般公開

期間: 10月17日(水)~10月21日(日)

午前9時~午後3時

※この期間中は、一切の手続きなしで参観できます。

回王朝の宴 =源氏物語の中の舞楽と琴=

日 時: 昭和59年10月7日(日) 午後1時

場 所: シルクホール

入場料: 前売券 2,000円 当日券 2,500円

主 催: 京都舞楽会

回未公開寺院特別拝観

日 時: 11月1日(木)~11日(日) 9時~4時

対象寺院: 大徳寺本坊(11月3・5日休み)・

聚光院・徳禅寺・真珠庵(11月9日まで)

建仁寺本坊(11月9日まで)・両足院・久昌

院・法然院(11月9日まで)・高台寺・知恩院

(大方丈・小方丈)・西本願寺(滴翠園)

霊鑑寺・真如院

拝 観 料: 1カ寺 600円

主 催: 京都古文化保存協会 (お問い合わせ (075)561-1795)

西ノ京ずいき祭

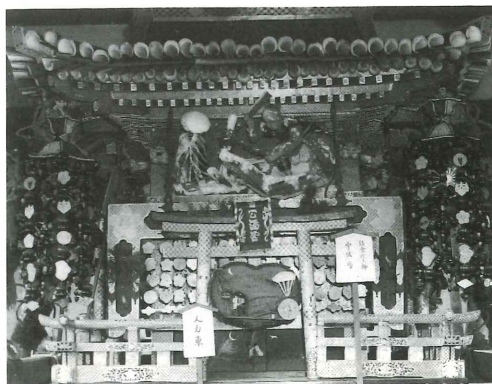
北野天満宮(京都市上京区)の秋祭で知られる瑞饋祭は、毎年10月1日から5日まで行事がおこなわれます。

この祭の起源は、古く平安時代といわれ西ノ京の社家が五穀豊穡を感謝して毎年、新穀、野菜、果物などを盛った神饌を神社に献じたことにはじまり、現在の神輿の形態になったのは江戸時代初期の頃からといわれる。

北野天満宮へ奉納される瑞饋神輿は、屋根、欄間、柱など神輿の各部がすべてずいきや野菜、乾物類を使って精巧に造られており、神輿の巧妙な造形技術と美しい外観は、この祭の人気の中心となっている。現在、神輿の製作は、すべて西之京瑞饋神輿保存会の人達の手作りによるもので、その意匠は毎年、新しい工夫がこらさ



ずいき神輿の巡行



ずいき神輿

れている。

ずいき祭行事日程

- 9月30日 瑞饋神輿の飾りつけ(北野天満宮御旅所)
- 10月1日 神幸列の本社出発(午後1時)
着御祭(午後4時)・八乙女「田舞」の奉納
- 10月2日 献茶祭(午前10時北野天満宮御旅所)
- 3日 甲御供奉納饌(午後2時北野天満宮御旅所)
- 4日 瑞饋神輿の巡行(午後1時)
- 5日 後宴祭(午後3時)・八乙女「田舞」奉納



北野と ずいき祭

北野天満宮 宮司
片桐 勤

京洛の秋祭の魁をなす北野天満宮のずいき祭は、10月1日より5日までおこなわれます。菅原道真公を御祭神とする北野天満宮は、延喜3年(903)2月25日太宰府の配所でなくなられた後、40年余りして村上天皇の天暦元年(947)6月9日北野の地に神霊としてお祀りされ、更に一条天皇の永延元年(987)8月5日官幣に預かり祭祀がおこなわれ、これが北野祭の発祥

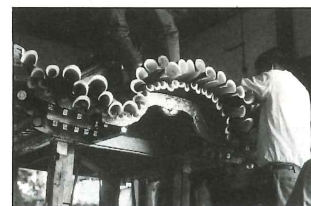
となる。その後、御鳳輦、葱華輦(村上天皇の御寄進という)が御旅所へ渡御されるようになり、次第に秋の稔りの感謝という農耕神の色彩が濃くなってきた。私達の遠い祖先は、その生活の基盤である農耕に関し、自然神への敬虔な祈りを捧げる祭りを厳修してきた。このずいき祭も農耕の神としての天神さんに豊作を感謝するお祭りである。西ノ京の神人等が秋の収穫の時、野菜、豆、瓜等を台に盛り天満宮に献じ感謝を捧げたのに始まり、それが段々大掛りになり、ずいきで屋根を葺いて神輿に飾り、ねり歩き前述の北野祭には御旅所に献ぜられるようにもなった。これをずいき神輿(京都市登録無形民俗文化財)と称するようになり、お祭り自体をもずいき祭りと呼び名されるようになった。



ずいきの刈取りは、毎年9月29日に行なわれる



神輿の飾りに使われる細工のものほとんど農作物である。



ずいきで神輿の屋根を葺く



柱の飾りに使われる千日紅

ずいき神輿 の製作

西之京瑞饋神輿保存会会長
佐伯 昌一



戦前9月の夜になると、あちこちの町内(西ノ京13ヵ町)の軒先に町名を書いた提灯がかかり、家の中では町内の人達が神輿の細工に夜なべをしていたのを子供心に覚えています。町内の若中の人々が、各町分担の麦わら細工、千日紅、枳形(トーチン細工)、角暢楽等を製作されていたのです。現在、町内に若中の残っている所はほとんどなく、角暢楽、麦わら細工の一部をのぞいてほとんどが保存会々員の手によって製作しております。私が、入会した昭和22年頃は会員も多く、何か一つ自分の受持ちの事をすれば他の事は知らなくてもよかったのですが、現在は会員の数が少ないためどのような事もできるようにしています。例えば、四面の人形細工などは昔は細工師の方が作っておられましたが、

今はすべて会員の手によって作られています。戦前、丹波篠山などで作ってもらっていた千日紅は、45年頃より西ノ京で作っており、また戦前、岡山より買入れていた麦わらが昨年より材料難となり来年から西ノ京で作付するよう検討しております。現在、会員が年々高令化して新会員の獲得に頭をなやましていますが、五穀豊穡を祈りつつ今年もずいき神輿の製作にはげんでおります。



古い寺に住んで

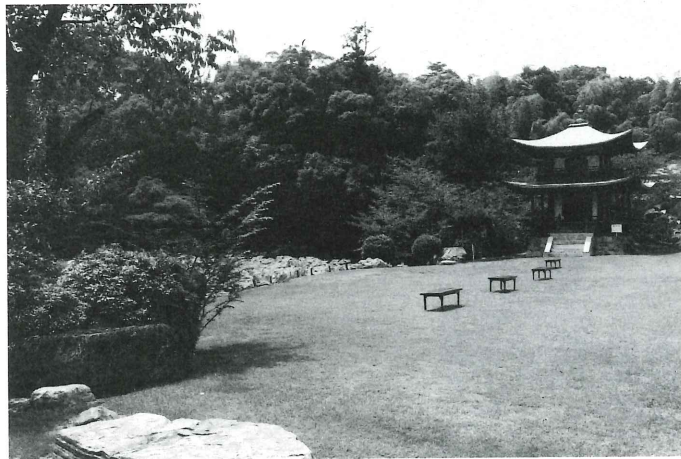
<17>

勸修寺 住職

筑波常遍

勸修寺は、醍醐天皇が昌泰3年(900)に創建されました。醍醐天皇は、藤原高藤の孫にあたられますので、藤原一族の帰依を受け寺域も相当広かったようです。即ち、現在地は町名が仁王堂町ですから昔は仁王堂が、また西の方に勸修寺本堂山町がありますので本堂は、ずっと西の方に在ったことが地名から推察されます。応仁の乱では、焼野原となり秀吉とトラブルを起こして田畑を取りあげられたりしましたが、徳川四代・五代將軍の力を得て、現在の姿に再興されました。

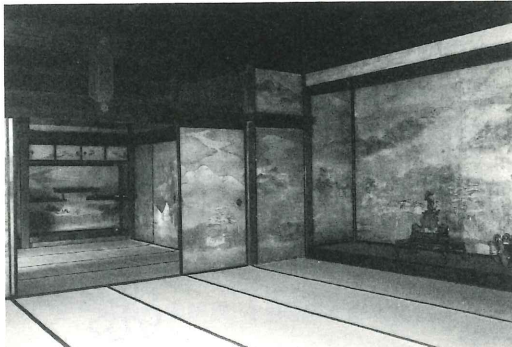
私は、昭和25年にはお寺とは無縁の東京の一中学の修学旅行生として京都を訪ねました。まだ、戦災の跡のバラックが並んでいた東京からきて、京都、奈良の歴史の重みにびっくりしました。ほどなく幕末に大祖父が住職をしていた



氷室池を中心に平安時代の面影を色濃くとどめる名園

勸修寺
(京都市山科区勸修寺仁王堂町)
亀甲山と号し、真言宗山階派の大本山である。
昌泰3年(900)醍醐天皇が、生母 藤原胤子の菩提を弔うため山城国宇治郡の大領 宮道弥益の宅跡に寺を建立。天皇等身の千手観音を本尊とし、外祖父にあたる藤原高藤の諡号をとって勸修寺と名づけた。

その後、代々法親王が入寺し勸修寺門跡と称し栄えたが、たびたび火災や兵火にあいまた豊臣秀吉の伏見城築城のさいも寺領を縮小されるなど寺運は衰退した。江戸時代に入って、霊元天皇から仮内侍所を賜わって本堂を再興、また明正天皇からも旧殿を賜わり、書院、宸殿とし幕府も寺領を寄進するなどがあってほぼ現在の寺観が整えられた。



書院(重文)は、江戸初期書院造の代表的なもので、土佐光起筆と伝えられる内部の襖絵も有名である。

この寺に入ることになり、今度は修学旅行生を迎える側にたちました。

小僧にもらわれてきた時、勸修寺の本堂は傾い

ており傾いているのが寺だと思い込んでいましたが、このたび保護財団をはじめ多くの方々のお力を得て、親柱をまっすぐに直すことができました。全く感謝の外はありません。

当寺の国指定の文化財建造物は、「書院」だけですが、「宸殿」は元禄10年(1697)に御所からの移築で、明治5年2月5日には京都市立勸修小学校がこの建物を校舎として開校しま

した。これは、京都府下、郡部の開校のトップです。又、戦時中は陸軍病院の分院となり、元氣になられた旧軍人さんが「なつかしい天井板をもう一度見たい」と訪ねて来られたりします。

いずれにせよ一つの寺が、千年の歴史を歩むのにはどれだけ多くの方々のお力を頂いているかわからず、感謝の気持ちを新たにしている今日このごろです。

合掌



書院前庭と勸修寺型灯籠

保護財団の活動

一源平800年記念一

第15回 郷土芸能の夕

第15回目を迎える今回の郷土芸能の夕は、京都の郷土芸能のなかから源平にちなんだ芸能をあつめ、京のわらべうたを折りこんで紹介いたします。

また、今回は名古屋から国の無形文化財に選択されている土居崎検校正富氏の平家琵琶の特別出演もおこないます。

回日 時 10月27日(土)午後6時30分開演
回会場 京都会館第2ホール
回出演 白拍子舞・久世六齋念仏(源平盛衰記など)・嵯峨大念仏狂言(船弁慶)・修学院紅葉音頭(俊寛)・今宮やすらい花・京のわらべうた

特別出演：平家琵琶「那須与一」

(土居崎検校正富)

回司会 高石ともや

回演出 権藤芳一(京都観世会事務局長)



今回の郷土芸能の夕で演じられる嵯峨大念仏狂言「船弁慶」

回入場料 前売券 900円
(市内各プレイガイドで発売)
当日券 1,200円
団体券 800円(15人以上)
回主催 京都市
京都市文化観光資源保護財団

※本催の入場料を当財団会員の方、ご本人に限り郷土芸能の夕会員割引券を切りとり当日入場券売場へご提出下さい。

郷土芸能の夕
会員割引券
¥800

(ご1名様限り)
京都市文化
観光資源保護財団

昭和60年版

文化財カレンダーのお知らせ

テーマ「京の書院と障壁画」

昭和60年版文化財カレンダーを、テーマ「京の書院と障壁画」と題し作成いたしました。

会員の皆様方でカレンダー配布ご希望の方は、下記の要領によりお申し込み下さい。

- 掲載内容 二条城二の丸黒書院（国宝）
西本願寺白書院（国宝）
勧修寺書院（重文）
妙心寺霊雲院書院（重文）
醍醐寺三寶院表書院（国宝）
桂離宮新御殿
- 申込方法 文化財カレンダー申込及び住所、氏名（法人の場合は、法人名と代表者名）を記入のうえ、切手350円分（郵送料）を同封し、封書によりお申し込み下さい。
- 申込期間 12月1日まで
- 申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町 京都会館内

- ⑤○申し込み資格は、当財団会員に限ります。
- 申し込み部数は、1人につき1部とします。
- なお、申し込み多数の場合は、制限することがありますのでご了承下さい。
- カレンダーの発送は、12月上旬頃の予定です。

第40回文化財特別参観のご案内

“金戒光明寺”

今回は、黒谷さんと呼ばれ親しまれている金戒光明寺を訪ね、文化財を鑑賞いたします。

- 回参観日時 昭和59年12月1日(土)
午後2時（参観時間約2時間）
- 回対象者 財団募金協力者（会員）とその家族
- 回申込方法 住所・氏名・年令を記入し、返信用切手60円分を同封の上、封書によりお申込下さい。
- 回申込先 京都市左京区岡崎最勝寺町
京都会館内 〒606
京都市文化観光資源保護財団宛

回参加費不用

※お問い合わせは、財団事務局まで。なお、参加ご希望が多い場合、制限することがあります。

編集後記



回お寺や神社を訪れたとき、わたしたちにひとときの憩いとやすらぎを与えてくれます。

今回は、そのやすらぎを与えてくれる京都市内の社寺にある名花、名木といわれるものを伊佐義朗先生に紹介していただきました。

回当財団の設立当初よりおこなっています「郷土芸能の夕」もはやいもので、今回で第15回目をむかえることになりました。毎回、たくさんの方々にご覧いただき好評を博しておりますが、今回も京都の郷土芸能のよさをより一層味わっていただけるような多彩な内容になっています。会員の皆様もぜひご覧下さい。